

## 子育て疎遠な社会に待つものは……

会議で来仙した、30数年前の元同僚の看護師と久しぶりに再会した。今は、大都会の大きな保育所の園長となり、活躍している。

「大都会の保育所での一番の問題は何か」と尋ねたら、「真の育児に無関心なネグレクトかな」との答え。朝食させていない、着替えを持たせないなどの親が多いとか。親に話すと、「子どもが食べたがらないから……」との返答。子どもに朝食（バナナ一本でも）を食べさせてもらうように、親に言えるように教えざるをえないとか。また、他の知人の情報では、子どものことを考えて、現に朝の給食を始めようかと検討中の保育所もあるよう。

こうした話を聞いて、考えてしまう。私なりに極論的に思考すると、次のような模式が浮かび上がってくる。

子どもの様子は、社会の縮図。子どもを保育所に預け、大都会の遠距離出勤には朝は忙しく、親すらゆっくり朝食がままならない。夕方は夕方で、残業等もあり子どもを保育所に迎えにくるのは遅くなる。職場のストレス等で帰宅しても余裕ある子どもとの係わり合いは不可能。一方、社会は、女性の社会進出支援、親の育児負担軽減のために、保育所待機児童0の保育所増設の施策、等々…。

大人の考える大人の豊かさのために、子どもの心の豊かさは、ではどこで育まれるのであろうか…。親と子どもの関係論を重視した育児論が疎かなような気がするのは、私だけであらうか。世に育児書は氾濫しているようだが、マニュアル通りに行かないことこそ、育児。

近未来社会は、育児の主たる場は、保育所が担当ということになるのかなあ。子どもを育てるとはどういうことを思考する社会でないと、子育ての本質を理解できない親が、益々増えるであらう。その兆候は既に現れ、連日の親による虐待事件もその一側面かなとも思う。

子どもは、大人との関係の中で、大人を見習って育つので、こうした社会の中で育つ子どもが担う次世代社会は、どういう社会なのだろうか。一体、この社会はどこに向かっているのでしょうかね。

講義等で、親になり、また、次社会を担う学生自身に、「あなた達の担う次世代社会は、どういう社会にしたいのですか」と、問いを投げかけてみたいと思っている。